

**リレーメッセージ**

地球温暖化防止活動推進員  
 竹村直子(豊丘村)

今年の夏は、日本の最高気温が七十四年ぶりに更新されるなど、暑さに苦しめられました。  
 ここ何年かは夏が訪れる度に、前年より暑く感じるような気がしています。

県外から来られる方が「長野県は涼しい」と言われるこの地におきましても、真夏になると窓を開けて走っている自動車をみかけることは、至難の業です。エアコンを思いつきり利かせていることでしょうか。

私は自動車免許を取得して以来今日まで、雨が降ってガラスが曇って仕方の無い時だけしかエアコンは使いません。(家にはエアコンを付けていません。)窓を開ければ草木の間を駆けてきた気持のいい風が入ってくるのに、なぜエアコンを使うのでしょうか。

車に乗ること自体、地球環境に悪影響を及ぼしているのです。  
 せめて、エネルギーの消費を少しでも減らすために、エアコンの使用を避けたいと思います。私は、生きていること自体、地球環境に悪影響を与えていると思っていますので、自分ができる最大限の償いを惜しまないよう心掛けていきます。

「地球温暖化防止」の言葉とは無縁のように、エンジンをかけっぱなしで駐車中の無人の車... 「なんでエンジンかけっぱなしなのよ!」泥棒に持って行かれちゃえばいい!」なんて呟いています。子育て世代の人に多い気がします。ガソリンが値上がりしているのだから、節約して子育て資金に回せば一石二鳥だと思えます。

どんな社会問題でも、関心を持たない人達に、関心を持たせることは難しいことです。相手にやって欲しいことは、自分が率先して行うよう心掛けていく毎日です。

**南アルプス三伏峠植生復元活動ボランティアを募集します。**

日時  
 九月二十二日(土)  
 二十四日(月)

活動場所  
 南アルプス・三伏峠  
 防鹿柵の設置、パトロール、美化清掃  
 主催  
 南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク(静岡県)

費用  
 宿泊代(一泊二食七千五百円)については、主催者が負担します。  
 申込期限  
 九月十七日(月)

問合せ・申込み先  
 下伊那地方事務所  
 環境課(〇二六五―五三一〇四三四)  
 詳細は、同封のチラシを御覧ください。

**地球温暖化防止セミナーの開催について**

管内の地球温暖化防止活動推進員を対象として

NPO法人いいた自然エネルギーネットワーク山法師が建設した化石燃料ゼロハウスを会場に、かまどなど化石燃料を使わない体験を実践すると共に、有識者等の講義や意見交換を通じて、具体的な地球温暖化防止活動の実践方法について研修するセミナーです。

平成十九年度は、四回連続のセミナー形式として可能限り連続参加することにより、地域の温暖化防止活動の核となる実践リーダーを育成します。

▼**第一回地球温暖化防止セミナー**  
 対象者  
 管内の地球温暖化防止活動推進員  
 日時  
 九月二十九日(土)  
 午後四時〜午後八時頃  
 場所  
 風の学舎(飯田市下久堅)

▼**第二回地球温暖化防止セミナー**  
 対象者  
 管内の地球温暖化防止活動推進員  
 日時  
 十一月二十三日(金)  
 午後三時〜午後八時頃  
 場所  
 風の学舎(飯田市下久堅)

▼**今後の開催予定**  
 対象者  
 管内の地球温暖化防止活動推進員  
 日時  
 九月二十九日(土)  
 午後四時〜午後八時頃  
 場所  
 風の学舎(飯田市下久堅)

費用  
 交流会参加者は、三千元(食事・飲み物代)

▼**第三回地球温暖化防止セミナー**  
 対象者  
 管内の地球温暖化防止活動推進員  
 日時  
 十一月二十三日(金)  
 午後三時〜午後八時頃  
 場所  
 風の学舎(飯田市下久堅)

▼**第四回地球温暖化防止セミナー**  
 対象者  
 管内の地球温暖化防止活動推進員  
 日時  
 十一月二十三日(金)  
 午後三時〜午後八時頃  
 場所  
 風の学舎(飯田市下久堅)

▼**今後の開催予定**  
 対象者  
 管内の地球温暖化防止活動推進員  
 日時  
 九月二十九日(土)  
 午後四時〜午後八時頃  
 場所  
 風の学舎(飯田市下久堅)

当セミナーは、平成二十年二月三日(日)、三月十五日(土)に第三回、第四回の開催を予定しています。

**編集後記**

待望の通信「南信州環境ネット」が産声を上げることができました。多くの人たちに愛されて大きく育って欲しいと願っております。

各分野の体制、活動状況、課題等につきまして、紙面の制約から割愛したところもあり、今回は全容を紹介することはできませんでした。次回以降、推進員等の皆さんが持つておられる知識、経験、特異な現象及び活動を通して明らかになった課題・問題点などを順次お伝えしていきたいと思えます。

なお、この通信は、年四回(六、九、十二、三月)の発行を予定しています。推進員等の皆さんからの情報提供を心よりお待ちしております。

**シカの食害で意見交換会**

農林業被害二億三千六百万円 高山植物も危機的状況



1963年

1963.7.28 中津頼照氏提供



2007年

2007.7.27 小林正明氏提供

八月二十九日、飯田市内において「飯伊地域ニホンジカ被害に係る関係者意見交換会」が、農林業関係者や専門家、行政担当など約百人が一室に集って開催されました。現状報告では、飯伊地域の平成十八年度のシカによる農林業被害額は、二億三千六百万円で十年前の約一・五倍に急増している現状を県側から報告、伊那谷自然友の会の小林正明会長からは、今

年調査した南アルプスの三伏峠付近では、高山植物が壊滅的な状況であることが報告されました。専門機関からは、「ニホンジカは一歳から毎年出産し、十年で三倍になる可能性もある。メスを捕獲しないと増加は食い止められない。」(長野県林業総合センター岡田研究員)「防護柵は十分な高さで、中を見せないようにし、くぐりぬけを防止することが大事。」

(信州大学農学部竹田助教授)など、対策への助言がありました。猟友会会員からは、「会員は年々減少し、高齢化の問題も抱えている行政担当者から率先した行動を」「捕獲しても山に放置する訳にはいかず処理に困る。」「免許の維持経費、捕獲や処理に費やす時間の負担も大きい。」など、猟友会任せでなく、地域全体での取り組みが必要であるとの

知事から委嘱された私たち環境関係推進員等九十名は、それぞれの分野で自然と環境を守り育てる活動を行っています。現下の自然・環境は、多くの課題・問題を抱えており、推進員等の活動も広範にわたり、分野間の連携が不可欠となっています。

この通信が、南信州の自然と環境を守り育てる一助になることを願っています。創刊の挨拶といたします。

**創刊にあたって**

〜分野間の交流・連携を目指して〜

企画編集委員長 松澤肇(飯田市)



決のため、関係者が一丸となって、個体数の調整や防護柵・緩衝帯などの設置、捕獲した個体の有効活用、高山植物の保護などの対策に取り組むことを決議しました。

自然保護レンジャー  
中島道遙（飯田市）

平成十三年から、長野県の美しく豊かな自然環境を保全し、後世に伝えていくため、「自然保護レンジャー」制度がスタートし、私たち自然保護レンジャー十八名（全県四百六十一名）は、自然公園等の保護や適正な利用、自然環境の保全に関する意識の高揚を図るための活動を行っています。

「大平峠民の森」の湿地に、例年ですと四月下旬、雪解けの頃に純白の花を咲かせるミズバシヨウの群生地があります。

しかし、ミズバシヨウはもともと大平には自生していなかった植物で、誰かが移植したものです。果たして、それでよいのかという疑問が出てまいります。私は自然保護の立場で申す訳ですが、望ましいことではないと考えております。

自然とは、砂防工事等の県土を保全する行為の他は、古来の地に存在するものだけに留めるべきと考えています。

植生を変えることなどは、観光目的の行為であって、公立公園には相応しくないと、保護活動の道すがら、ブツブツ呟くことが多々あります。



地球温暖化防止活動推進員

今村良子（飯田市）

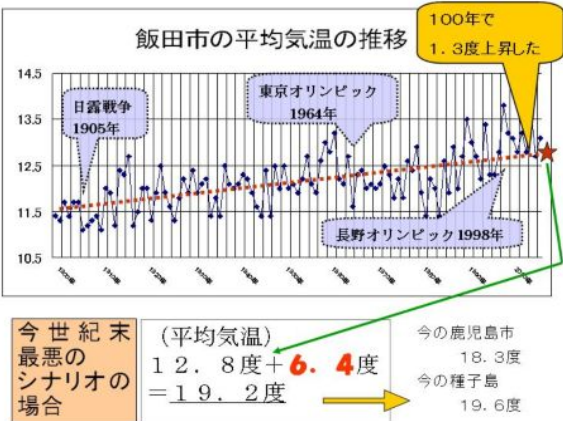
私たち地球温暖化防止活動推進員四十名（全県二百四十七名）は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づいて、平成十五年十一月に「地球温暖化防止活動推進員」制度がスタートして以来、学習会や講演会などを企画して、地球温暖化の仕組みや二酸化炭素の排出状況について、効果的な対策等のアドバイスをを行うなど、地域活動の旗振り役、先導者として活動しています。

八月上旬、「NPO法人いいだ自然エネルギーネット山法師」が、飯田市下久堅下虎岩に仮オープンした体験交流拠点施設「エコハウス」風の学舎を訪れる機会を得ました。当施設は、風力発電、太陽光発電などの設備を備えた化石燃料ゼロハウスでした。

体験交流を通して、地球温暖化防止の実践手法を会得させるアイデアに感銘しました。

今夏の気温は体温よりも高いと言われる異常気象でした。地球温暖化が、諸々の現象として徐々に現れてきています。

地球温暖化防止に関わることで、私たちに出来ることは、率先して実行するよう心掛けたいものです。



不法投棄監視連絡員

佐々木健康（飯田市）

私たち不法投棄監視連絡員十五名（全県百名）は、廃棄物等の不法投棄を早期に発見するとともに、これを未然に防ぐためにパトロールなどを行っています。

最近社会的な課題として、様々な分野で「モラルの低下」という言葉を耳にします。ゴミの不法投棄もその一つで、自分の都合のみで生きている社会性に欠けた人々が多い気がいたします。

先日、私の実家の地区で花火大会が行われました。毎年のことではあります。皆さんの飲食等によるゴミが出ます。主催者側から用意されたゴミの収集場所があるにもかかわらず、心無い人が何気なくゴミを本来収集場所でない電柱の下に置いて行くため、その後、次から次へとゴミが捨てられ、山のようになってしまう状況を目の当たりにしています。

にし、驚きと憤りを感じました。ひと昔前に流行った「赤信号みんなで渡れば怖くない」状況です。私の関わっている「不法投棄監視」という六文字は、何となく法律的でかたい感じを受けますが、日常生活の中で、一つの手に持つことが出来る小さなゴミ、例えばタバコの吸い殻一つを本来の場所以外に捨てたりする事も大きな道徳違反、法令違反ではないでしょうか？

「不法投棄は止めましょう」の啓発よりも、「分かっちゃいるけど止められない」を止めることができる人間造りが必要だと痛感しています。



今、南信州で起こっていること  
私たちは、かけがえのない「故郷」の  
自然と環境を守りたい。

希少野生動物植物保護監視員

木下進（松川町）

私たち希少野生動物植物保護監視員九名（全県九十二名）は、平成十六年度に制定された長野県希少野生動物植物保護条例に基づき、希少野生動物植物の生息、生育地の監視、啓発活動を行うことが使命です。

私が県から与えられている仕事は、サンショウウオの監視です。大変困難な仕事です。生息地の確保は容易ではありません。その上、生息地を紹介すれば、すぐにでも採取される危険があります。

これまでに、こんなことがありました。カタクリ、ミスミソウ等、希少植物の観察会をしました。すばらしい自然を共有して頂いた思いで、三日後その地を訪れますと、なんとそこには、



カタクリもミスミソウの姿はなく、スコップで掘り起こされた跡が百も二百もあったのです。強いショックと罪を感じました。すばらしい自然を紹介したのに、そのつけはこうした姿です。これが、希少野生動物植物が置かれている現状です。

環境ウオッチャー

松澤肇（飯田市）

私たち環境ウオッチャー八名（全県六十五名）は、身近な生活環境の疑問点や、異常な現象などを県や市町村などに連絡する活動を行っています。

昨年、異常な現象として私が報告したもので、皆さんに是非知ってほしいことの一つをレポートします。

写真は昨年十月二十八日に自宅で撮ったものです。一見普通の蝶ですが、これが「ツマグロヒョウモン蝶」で、亜熱帯種に属し、本来飯田地方には生息していません。北上してきた蝶です。平成時代に入って当地で発見されてはいたが、産卵しても越冬することができないでいたようです。しかし、五年ほど前から春先に幼虫の確認が報告されており、当地で繁殖できるようになりました。

私が撮影した時期が、十月末であることに注目しています。成虫は七月から九月末頃までが生息期間と言われていますが、昨秋は特に日照りが遅くまで続いたことで、長く生息出来たのでは？と推測出来ることです。たまたま蝶であり、きれいで可愛らしい小動物なので、これ自体は何の問題

もないように多くの人たちは思われるでしょう。

しかし、こうした現象は今後、すべての動植物に及ぶと考えたらどうでしょう！例えば、「害虫」「細菌類」などです。既にある農家のりんごがダニの被害で全滅したことがあり、その要因として、例年よりは暖かい日が長く続き、ダニが生息できたことが挙げられております。今後、関係当局において調査が行われることでしょうか、現実には、予測不能なことが発生していると思えます。

近年、飯田地方の平均気温は確実に上昇し、真夏日も年間六十日前後に達しています。温暖化を個人では食い止めることはできないと考えがちですが、地球は、確実に悪化の一途を辿っております。

温暖化防止は、地域や、一人ひとりに課せられた将来への宿題であり、責任では無いでしょうか。そのように感じたりませんか。

